

“豊かな”三豊を育むために、 私たちがすべきこと・・・

三豊市新総合計画 ～自立への助走路～を策定しました

問い合わせ 企画課 73-3010

皆さんは、10年後の自分や自分の生活はどうなっているのだろうかと考えたことがあるでしょうか。

三豊市新総合計画は、10年後の三豊を、市民みんなの力でこんな“まち”にしようという姿を描き、それに向かって、市民・市民組織・民間企業・行政、それぞれが何をしていけばよいのかを示したもので、いわば今後10年間のまちづくりの計画書とも言えるものです。

このようなまちづくりの計画書は、地方自治法という法律によって全国すべての市町村で作ることが義務づけられています。これまで、国主導の地方自治が行われていた関係から、どこの市町村でも同じような計画書が作られたり、計画書を作ることが目標になってしまい、毎年度の事業の実施段階では参考程度にしかなかったりしていたことも否定できません。

しかし、地方分権時代の今、地方の意思と責任においてまちづくりが行われることになり、まちづくり計画書が本当の意味での重要性を増しています。計画性を持たずに、その時その時で対応していたのでは、市民の皆さんと行政で情報や価値観の共有は行えず、ともに考え行動するまちづくりはできません。

三豊市新総合計画では、10年後の目指すべき姿や、それに向かう取り組みについて具体的に示すとともに、常にこの計画書が「最善」のものであり続けるための見直しや事業の評価制度についても示しています。

三豊が、「自主・自立」した住みやすい「まち」になるよう、みんなで力を合わせて第一歩を踏み出しましょう。

基本理念は「自主・自立」

今回、三豊の将来の姿を考えるにあたり、まず三豊の将来に向けたまちづくりの基本理念を「自主・自立」としました。これは、これまでのように国や県からの支援に頼らず、私たちの“まち”のことは、私たち自らの意思と責任で決めていくという考え方に基づくものです。

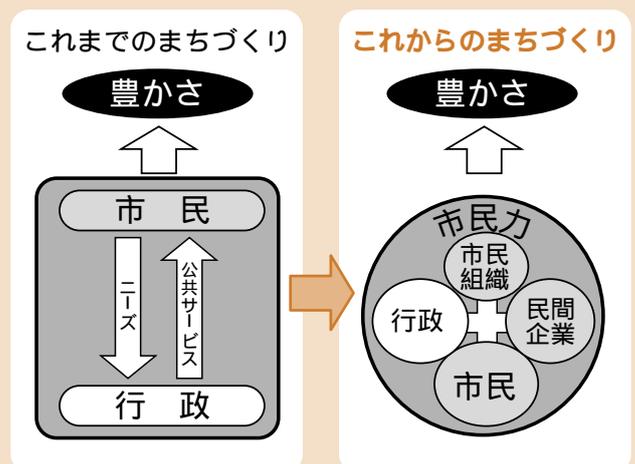
欠かせないのは「市民力」

そして、この「自主・自立」の理念に基づくまちづくりに欠かせないもの、それは、市民・市民組織・民間企業と行政が互いに手をとるあい、「人と物を大切に作る心」を最大限に生かしながら知恵と行動力を生み出す「市民力」だと考えています。

「市民力」を発揮するために「地域内分権」を進めます

これまでのように、行政が公共サービスを提供し、市民はそのサービスを受けて“豊かさ”を得るという構図は、市民のニーズの多様化・複雑化や厳しい財政状況の下では、既に対応が困難な状況になっています。そのためこれからの三豊には、新しいシステムの構築が必要となっています。

そこで、市民や市民組織、民間企業がそれぞれの立場で考え、これまで行政が提供してきた公共サービスのうち、「市民ができることは市民が」、「民間企業ができることは民間企業が」担い行動する「地域内分権」という新たな考え方で、「市民力」を発揮する三豊市型のまちづくりを行っていくこととします。



目指す姿は「市民力」を発揮して、“豊かさ”を育むまち

このように「自主・自立」を基本として、「市民力」を高め生かすことにより、三豊ならではの特性や資源を見つめ直し、さらに磨きあげるとともに、それらを融合・一体化させることで、産業や生活環境・基盤から健康福祉、教育・文化にいたるまで、さまざまな分野における新しい三豊の姿、すなわち三豊市型の“豊かさ”を自らの手で生み出し、全国・世界に向けて発信できる“まち”を創り上げていくために、

三豊の将来像を

“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊

としました。

この将来像を私たち全員で共有し、自主・自立した“豊かな”三豊の未来に向かってともに進んでいきましょう。

将来の人口目標は「65,000人」

さらに、三豊のまちづくりを進めるうえで、先の将来像とともに、特に重要視するものは、まちの活力を示す値ともいえる総人口です。

三豊の将来人口を予測したところ、その結果は表のとおりとなり、総人口は、10年後の平成30年には62,241人にまで減少し、年齢構成比も年少人口比率が低下し、老年人口比率が拡大することが分かりました。

この結果からも、今後の人口減少は三豊のまちづくりに大きな影響を与えることが予測されます。三豊の活力を失わないためにも、今、ここに将来の人口目標を掲げ、それを達成するための具体的な努力を行うことを提案しました。

人口予測結果 (単位: 人、%)

区分	年	平成 17 年	平成 25 年	平成 30 年
総人口		71 180	66 110	62 241
年少人口 (14歳以下)		8 920 (12.5)	7 779 (11.8)	6 868 (11.0)
生産年齢人口 (15～64歳)		42 254 (59.4)	36 809 (55.7)	33 156 (53.3)
老年人口 (65歳以上)		20 006 (28.1)	21 522 (32.6)	22 217 (35.7)

注:平成17年は国勢調査結果
コーホートセンサス変化率法による予測結果

三豊の10年後の人口目標は

65,000人

です。

しかし、この65,000人という将来の人口目標は、決して簡単に達成できるものではありません。

目標達成のためにも、私たちみんなが、この人口減少と少子高齢化に対し危機感を抱き、果敢にまちづくりに取り組まなければ達成は困難なものだと考えています。

計画の実現にむけて、私たちがすべきこと

今回、策定した三豊市新総合計画の実現に向けて重要なことは、まちづくりの主役である市民・市民組織・民間企業・行政が、これまでの役割を見直し、互いの特性を踏まえた上で、「地域内分権」という手法によってこれから担うべき新しい役割について共通の認識を持たなければならないということです。

私たち全員が、それぞれの立場から「三豊」の将来のために何ができるのかを考え、三豊を愛する気持ちに満ちあふれた「市民力」という無限の力を発揮し、「三豊市型まちづくり」を進め、三豊の将来像「“豊かさ”をみんなで育む市民力都市・三豊」の実現や、将来人口目標「65,000人」の達成にチャレンジしましょう。

次号「広報みとよ 12月号」とともに、各家庭に三豊市新総合計画のダイジェスト版をお届けし、計画のより詳しい内容について皆さんにお知らせします。



ウォーキングパトロール隊



地域清掃ボランティア



企業 安全・防災訓練

